

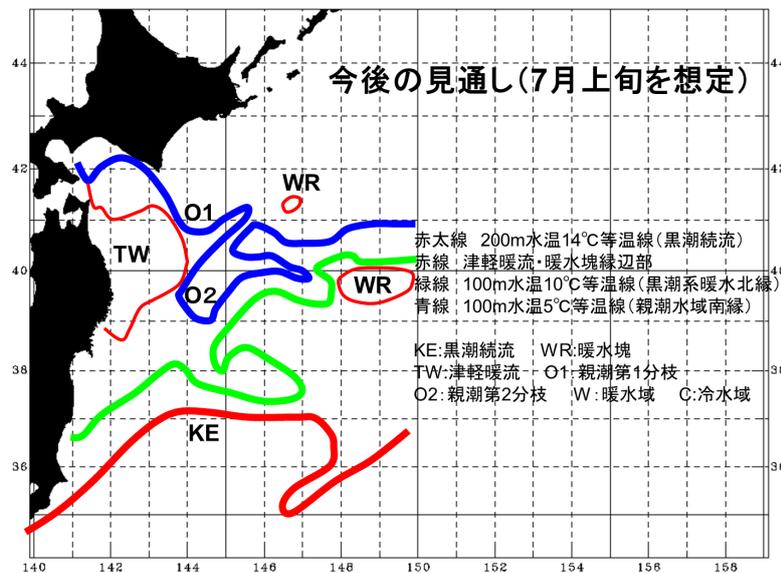


2021年度 第2回 東北海区海況予報

－ 別表の水産関係機関が検討し国立研究開発法人水産研究・教育機構
水産資源研究所がとりまとめた結果 －

今後の見通し(2021年6月下旬～2021年7月)のポイント

- ・ 近海の黒潮続流の北限位置はやや北偏～極めて北偏で推移する。
- ・ 親潮第1分枝の張り出しは平年並み～かなり北偏で推移する。
- ・ 釧路沖の暖水塊は消滅し、新たな暖水塊が形成される。
黒崎沖の暖水塊は津軽暖流の張り出しに取り込まれる。
三陸はるか沖の暖水塊は停滞する。



問い合わせ先

国立研究開発法人 水産研究・教育機構
担当: 企画調整部門(横浜) 森永
海洋環境部 (釧路) 栗田、東屋
電話: 0154-91-9136、ファックス: 0154-92-9355
当資料のホームページ掲載先URL
<http://www.fra.affrc.go.jp/pressrelease>

2021年度東北海区海況予報 第2号

《今後の見通し（2021年6月下旬～7月）》

近海の黒潮統流の北限位置はやや北偏～極めて北偏で推移し、親潮第1分枝の張り出しは平年並み～かなり北偏で推移する。釧路沖の暖水塊は消滅し、同海域に新たな暖水塊が形成される。黒崎沖の暖水塊は西進し津軽暖流の張り出しに取り込まれる。三陸はるか沖の暖水塊は停滞する。

《海況の経過（2021年4月～2021年5月下旬）の特徴》

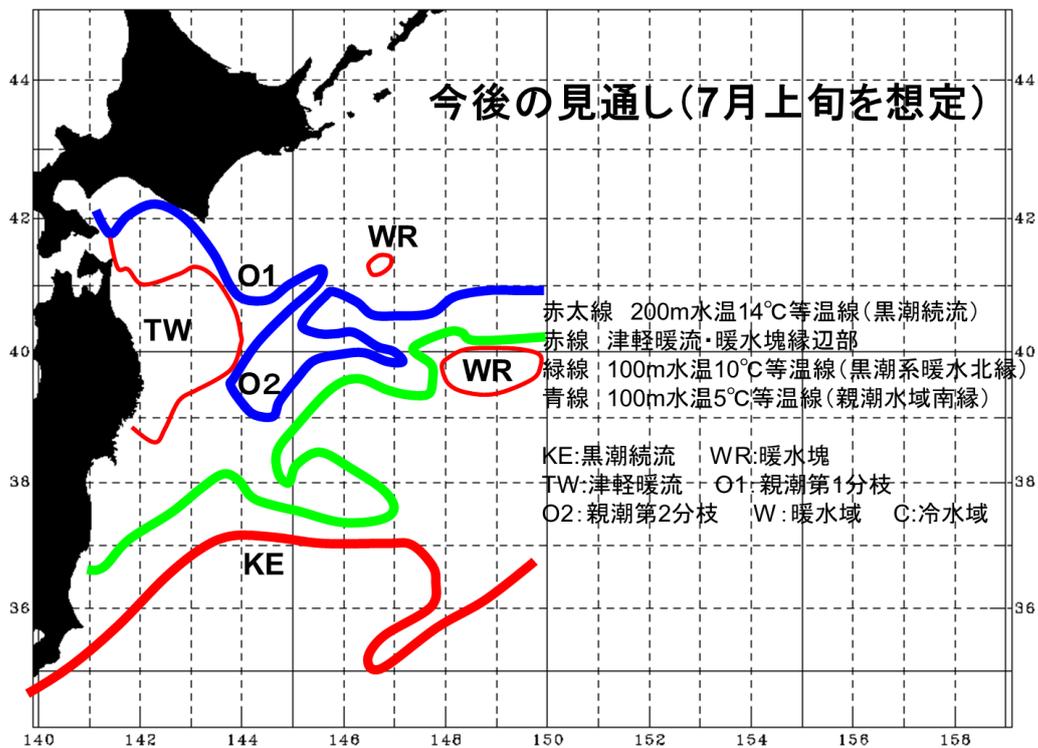
近海の黒潮統流の北限位置はかなり北偏～極めて北偏で推移した。親潮第1分枝の張り出しは平年並み～やや北偏で推移した。釧路沖の暖水塊は停滞した。三陸沖の暖水塊は北上した。三陸はるか沖の暖水塊は停滞した。

《現況（2021年6月上旬）の特徴》

近海の黒潮統流の北限位置は極めて北偏、親潮第1分枝の張り出しはやや北偏である。暖水塊が釧路沖、黒崎沖、三陸はるか沖にある。冷水域が金華山沖にある。

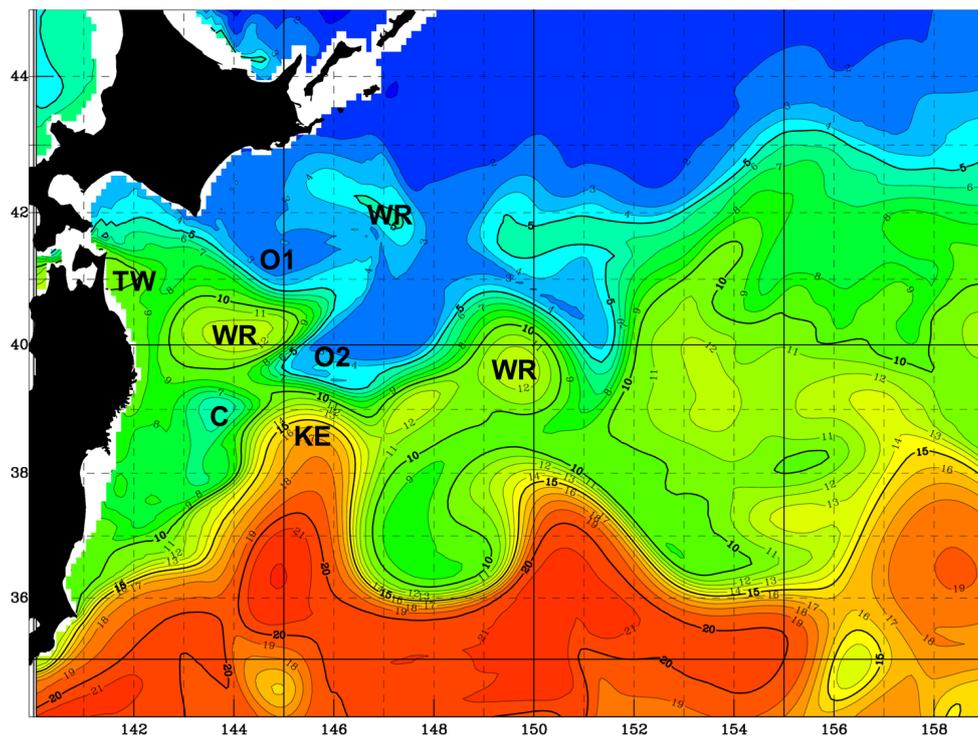
（注）この海況予報は、国立研究開発法人水産研究・教育機構により開発され、2012年5月より運用を開始したFRA-ROMSシステムを用いた。FRA-ROMSは、我が国周辺太平洋域の海況経過を再解析し、2ヶ月先までの海況を予測する海況予測システムである。

7月上旬予測水温分布図



6月上旬現況水温分布図 (100m深)

TEMPERATURE AT 100m DATE: 2021/0601 - 2021/0607



図中の記号はそれぞれO1が親潮第1分枝、O2が親潮第2分枝、KEが黒潮続流、TWが津軽暖流、WRが暖水塊、Cが冷水域を表している。

参 画 機 関

<p>地方独立行政法人 青森県産業技術センター 水産総合研究所</p> <p>岩手県水産技術センター</p> <p>宮城県水産技術総合センター</p> <p>福島県水産海洋研究センター</p> <p>茨城県水産試験場</p>	<p>(取りまとめ機関)</p> <p>国立研究開発法人 水産研究・教育機構 水産資源研究所</p>
--	--